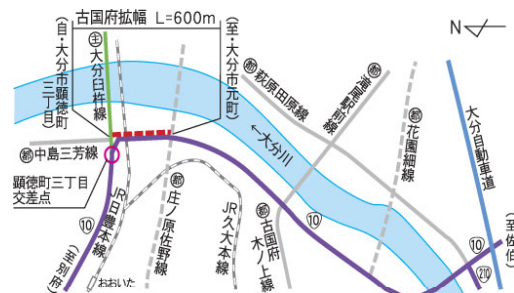


再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：下保 修

事業名 一般国道10号 古国府拡幅 <small>ふるこう</small> <small>おおいた けんたくまち</small> 自：大分市顕徳町三丁目 <small>おおいた もとまち</small> 至：大分市元町	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自：大分市顕徳町三丁目 至：大分市元町		延長 0.6km
事業概要 古国府拡幅は、「JR日豊本線等大分駅付近連続立体交差事業」と併せて国道10号の拡幅を行い、顕徳三丁目交差点付近の交通混雑の緩和、沿道環境の改善、交通事故の防止、交通安全の向上を図る事業である。		
H10年度事業化		H15年度工事着手
H7年度都市計画決定 （H17年度変更）		H11年度用地着手
全体事業費		供用済延長
97億円		0km
事業進捗率		75%
計画交通量 34,100～35,100台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 12.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 12/93億円 (事業費：9.7/91億円) (維持管理費：2.5/2.5億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 151/151億円 (走行時間短縮便益：131/131億円) (走行費用減少便益：15/15億円) (交通事故減少便益：3.9/3.9億円)
基準年 平成19年		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=13.8 (交通量+10%) B/C=11.2 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=11.5 (事業費+10%) B/C=13.5 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C=12.0 (事業期間+20%) B/C=12.8 (事業期間-20%)		
事業の効果等 ・都市の再生（大分駅付近連続立体交差事業と併せ一体的に行われる拡幅事業であり、交通混雑の緩和、沿道環境の改善、交通安全の向上が見込まれる） 他7項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 都心部の慢性的な混雑状況を改善するため、大分駅付近連続立体交差事業や大分中央幹線道路（庄の原佐野線）等のハード整備が進められており、これに加え、「大分駅付近連続立体交差事業交通円滑化検討部会」による、マルチモーダル施策や交通需要マネジメント施策等のソフト対策が検討されている状況にある。本事業は、周辺自治体や関係機関との連携をより一層強化し進める必要がある。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線の市町村合併（大分市・野津原町・佐賀関町）、人口の増加（新大分市は過去10年間で約4%増加）、観光産業における入込客数や製造業における出荷額が増加、第一次産業（農業産出額）は減少。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在の事業進捗率は既に75%に達している（そのうち用地進捗は89%）。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 大分駅付近連続立体交差事業は平成20年代の完成供用予定であり、古国府拡幅事業は連立事業と併せて整備を推進していく予定である。		
施設の構造や工法の変更等 当初、作業ヤード確保と切替無しで計画したため、高い位置での仮橋が必要だったが、2回の切替を行う事で施工高さや建設コストの縮減を図っている。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。